

## 聖徳太子の正体－言語能力に秀でたグローバリスト

東京都文京区 松井孝司

### 聖徳太子不在論の背景

「聖徳太子」の名称は死後につけられた諡号であり、他に厩戸皇子、豊総耳皇子、上宮太子などいくつもの呼び名が伝わるので実在した人物の真偽は歴史資料に基づき再検証の必要があるとするのが日本古代史学者の見解と思われる。

聖徳太子否定論者の代表は津田左右吉氏であり、古事記と日本書紀などの文字資料の文献考証を研究手法とする学者である。神話を含む天皇家の物語は脚色もあり、史実を正しく反映してはいないので検証しようとする研究姿勢が間違っている。

津田氏の意見を丸呑みする大山誠一氏は論座2003年2月号の論文で「聖徳太子」は日本書紀によって偽造されたもので、藤原不比等や長屋王が唐から帰国した道慈という僧に命じて天皇制を擁護するために偽造したと主張している。聖徳太子の17条憲法と教育勅語は「どちらも大宝令と明治憲法という国家の基本法を補完すべく定められた」としており、大化改新と明治維新の史実も批判の対象にする。

### 聖徳太子の仏教理解と功績

聖徳太子の17条憲法第1条「和を以て貴しとなす」は仏教の「不二」の思想にもとづくものである。党派の対立解消に議論の必要性を説くもので、人間の対立意識を否定する。

第2条では「篤く三宝を敬え」と仏教の重要性を説く。聖徳太子が重視した経典は「三経義疏」で取り上げる「妙法蓮華経」「維摩経」「勝曼経」である。

中でも「妙法蓮華経」は「一仏乗（すべての人間が仏になること）」を主張する経典であり、7つの巧みな譬喩によって難解な真実の「法」を説く仕組みになっている。

「維摩経」「勝曼経」はいずれも出家ではなく在家の信者でありながら一仏乗の真実を体得し仏法に深い理解を示す人間の説話になっている。

聖徳太子がインドで誕生した難解な仏教を理解できたことは言語能力に秀でたグローバリストであったことを示唆するものであり、厩戸皇子というキリストを類推させる呼称を持ち中国、中央アジアで興亡を繰り返す国家群の事情に詳しいことからシルクロード経由で来日した帰化人であった可能性もある。

古代史研究家の小林恵子氏は隋や東ローマ帝国に書簡を送り対等外交を試みる聖徳太子に該当する人物は「西突厥の王であり、倭王名はタリシヒコ」であったという。

聖徳太子のブレンであった秦河勝は世界で最初の法治国家、秦の始皇帝の末裔を自称するユダヤ系帰化人である。平安時代初期に編纂された「新選姓氏録」には日本の氏族の約3分の1が帰化人であったことを示す記録があり、弥生時代から古代ユダヤ人の日本への渡来には五つの波があったと田中英道氏は推測している。

ユダヤ人が依拠する旧約聖書と日本の古事記に記載される神話の「構造」は酷似し、偶然の一致とは思えない。日本の各地に残る巨大古墳は帰化した古代ユダヤ人が秦の土木技術を用いて構築したものでありグローバルな活動をするフリーメーソン（自由な石工）の原型であった可能性がある。（田中英道著「日本にやって来たユダヤ人の古代史」文芸社刊参照）

キリスト教では異端とされたネストリウス派の一神教を仏教の一仏乗の思想に取り換え、天に存在する「神」を宇宙普遍の「法」に置き換え、争いを回避すべく日本国内の思想統一をしたことが聖徳太子の最大の功績と考える。

「サピエンス全史」の著者ユヴァル・ノア・ハラリによれば、グローバル化する帝国のビジョン（「八紘為宇」の思想！）により人類は今も統一に向って進みつつけるという。

### 仏陀が悟った真実とは何か？

インドや中国で北伝仏教が衰退してしまったのは一仏乗を説く大乘仏教の思想があまりにも難解であることが理由と思われる。唯一日本だけが今日まで大乘仏教を伝承できたのは国内に難解な仏教思想を理解できる頭脳の持ち主が一定数存在していたからだろう。

「妙法蓮華経」の「蓮華」は因果俱時の「妙法」を説くための譬喩であり、「維摩経」では維摩詰が理解する仏教思想を壮大なドラマ仕立ての問答を用いて説いている。

「維摩経」第2章で維摩詰は「わが身は地、水、火、風、空なり」と述べて自己を否定し、第8章では文殊が不二の法門について回答を求めたのに口をつぐんで一言も語らなかったとされる。無言の回答に文殊は「大いに結構、これこそ菩薩が不二はいることであって、そこには文字もなく、ことばもなく、心が働くこともない」と称賛している。しかし、無言のままでは仏教思想を現代に展開することはできない。

「仏教思想」、「不二の法」の内容を現代の言葉で語る必要があり、そのためには科学の方法論、「構造」の概念が有効と考え、私見をまとめて以下のwebページに掲載した。

[仏教思想と現代 \(biglobe.ne.jp\)](http://www2u.biglobe.ne.jp/~shimin/tmatsui/philosopy.htm) :

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~shimin/tmatsui/philosopy.htm>

[現代科学と「不二の法」 \(biglobe.ne.jp\)](http://www2u.biglobe.ne.jp/~shimin/tmatsui/huniron1.htm) :

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~shimin/tmatsui/huniron1.htm>

[現代社会と「不二の法」 \(biglobe.ne.jp\)](http://www2u.biglobe.ne.jp/~shimin/tmatsui/huniron2.htm) :

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~shimin/tmatsui/huniron2.htm>